

平成30年11月13日

皆野町長 石木戸 道也 様

みなの魅力発掘・創造会議
座長 堀口 喜久

答 申 書

平成30年3月16日開催の第17回みなの魅力発掘・創造会議において諮問のあった下記の件について、別添のとおり答申します。

記

1 諮問事項

- (1) 旧日野沢小学校跡地の交流・出会いの場としての整備
(リバーサイドレジャー)
- (2) 秩父音頭と俳句によるまちづくり

1 答申の前提、基本的な考え方について

皆野町は、産業衰退を一因とする人口減少という大きな危機に直面しています。日野沢小学校と金沢小学校の廃校はその象徴的な出来事です。皆野町は、自然豊かな里山であり、観光資源もある良いところです。しかしながら、統合的な取組が弱く、訴求力に欠けている点が大きな課題です。

当会議では、この課題解決に向け「一流に学び行動する」として、世界に誇る商業観光都市「浅草」との交流を通じたまちの活性化に取り組んでいます。日野沢地区、金沢地区もすでに浅草の地において交流活動を実践し、その歩みを進めています。

浅草もかつては皆野町と同じように、まちの魅力が低下し、来訪者・再訪者、人口が減少した時期がありました。その際浅草は「VISIT 浅草 AGAIN」を掲げ、「浅草回遊性ネットワーク」の基軸活動を開始しました。その結果、日本や海外から多くの来訪者・再訪者、人口増加を維持するに至りました。「浅草回遊性ネットワーク」の活動は、今でも浅草の中心的な活動となっています。

この浅草の取組に学び、「皆野回遊性ネットワーク」という基軸活動（それぞれの事業や地域が密接につながり、回遊性を持つことでまちの魅力を創造・強化すること）を前提として、提案を実現していくことを基本的な考えとしています。

2 答申内容

(1) 旧日野沢小学校跡地の交流・出会いの場としての整備

旧日野沢小学校跡地を、次の4つのエリアに区分し提案します。

①校舎跡敷地

(案1)

土砂災害特別警戒区域内にあり新規建築物の建築が困難なことから、四季折々の植栽を行い日野沢小学校メモリアルガーデンとして整備する。

(教室等のレイアウトで植栽をするなど、関係者が母校を忍び、また訪れた人が在りし日の日野沢小学校に思いを馳せるような工夫を検討する。)

(案2)

土砂災害特別警戒区域内にあり新規建築物の建築が困難なことから、かつての日野沢小学校を彩った紅葉美しい楓や、今も川沿いに残る桜等を、卒業生等が植樹し、在りし日の日野沢小学校に思いを馳せ、また思い出に残る場所として整備する。(自然豊かな日野沢の本来の姿を損なわぬよう樹種の選定・植樹のレイアウト等を検討する、また交流・出会いの機会創出できるよう植樹方法等を検討する。)

②その他敷地

自然豊かな里山の環境を生かし、家族連れや友人同士など、世代に関係なく幅広い利用が期待できるバーベキュー場を整備する。バーベキュー場の管理・運営は民間活力の活用を基本とすることで、市場ニーズに合致した運営を実現し、利用促進を図る。

(食材としてジビエの提供を行い、売り上げの一部を有害鳥獣駆除へ活用するなど、地域との連携や他との差別化を検討する。)

③日野沢川

清流の浅瀬を生かし、魚のつかみ取りや魚釣りを楽しめる親水ひろばとして、川への遊歩道や川を渡る飛び石等を設置する。取った魚はバーベキュー場で味わえるようにするなど川を中心としたレジャー施設として一体的に機能するよう整備する。

(清流の本来の美しさを損なわぬよう整備手法を検討する。)

④旧校庭（現、日野沢運動場）

(案1)

旧校庭（現、日野沢運動場）は、施設に不可欠な駐車場として活用する。

地元行事や、札所水潜寺御開帳時の臨時駐車場など、従来の使用を妨げないよう多用途に活用する。

(案2)

雨・風に影響されない全天候型の施設として、隣接する消防団詰所を模した日本家屋風の平屋を整備し、屋内には浅草との交流モニュメントかつ商業実践の場として「リトル浅草（伝法院通り）」を再現する。その他、頻繁なりピートを期待できるホビー客をターゲットに、民間活力を活用し公式ドローンレース場、ミニ四駆公認レース場、皆野町の伝統・文化（秩父音頭・俳句等）の情報発信ブースを整備するほか、浅草台東区をはじめとする都市部自治体向けの危機管理支援（災害備蓄等）のサービスを提供する。

(観光、ホビー、商業・産業の振興等、様々な目的・用途を持つ複合施設とすることで、幅広い方面から通年での集客・交流が図られるよう検討する。また、情報通信技術を活用した里山の疑似体験など、デジタル・サイエンスを切り口とした交流のきっかけづくり、新たな魅力づくりを検討する。平屋の整備場所は、必要な駐車場の確保を踏まえ、他の場所も含め幅広く最適地を調査・検討する。)

付帯提案（④旧校庭（現、日野沢運動場）（案1）を採択する場合）

旧日野沢小学校跡地の交流・出会いの場としての整備に関連し、日野沢地域の活性化事業として下記事業を提案します。

旧日野沢小学校跡地に整備する親水ひろば、バーベキュー場と一体となって集客

を図る全天候型のホビー施設を日野沢地域内に整備する。

ホビー客は観光客と比べ高いリピート率が期待できることから、バーベキュー場等の利用促進などに繋げる。

ホビー施設の整備については、既存施設（旧水と緑のふれあい館・地域の古民家等）の有効活用を基本として、民間活力を活用し、施設内に公式ドローンレース場やミニ四駆公認レース場等を設置する。

（上記のほか、交流する浅草を施設内に再現し、交流のモニュメント・商業の実践の場とする、台東区をはじめとする都市部自治体向けの危機管理（災害備蓄等）のサービス提供を行うなど、様々な目的・用途を持つ複合施設とすることで、幅広い方面から通年での集客・交流が図られるよう検討する。また、情報通信技術を活用した里山の疑似体験など、デジタル・サイエンスを切り口とした交流のきっかけづくり、新たな魅力づくりを検討する。）

（２）秩父音頭と俳句によるまちづくり

皆野町は、関東三大民謡の一つである秩父音頭発祥の地であり、また戦後俳句を代表する故金子兜太氏を輩出した伝統と文化の薫るまちである。秩父音頭と俳句により皆野町を内外に発信すべく以下のとおり提案します。

○隅田川水面の祭典、雷門前盆踊り等、世界の観光・商業地である浅草のイベントに積極的に参加し、継続的に秩父音頭を披露することで、浅草を通じて「秩父音頭のまち 皆野町」を国内外に発信し、まちの活性化を図る。

○毎年開催する秩父音頭まつりへの浅草の参加を促し、内外への情報発信力を高めまつり及び地域の活性化を図る。

（上記２つの提案については、未来に続く取組とするため、皆野町と浅草の子どもたちの交流が促進されるような工夫を検討する。）

○映像・音声・音楽で俳句をより魅力ある作品とする「デジタル俳句」を普及する。デジタルを活用することで、高齢者の趣味と捉えられがちな俳句のイメージを刷新し、あらゆる世代に魅力あるものとする。また「英語版デジタル俳句」など、外国人にも参加を呼びかける。コンテストの開催などにより、「(デジタル) 俳句のまち 皆野町」を国内外に発信し、まちの活性化を図る。